

令和6年度 津山市立清泉小学校 学校評価書(別紙)

(A:目標を上回った B:ほぼ目標どおり C:目標を下回った)

学校経営目標等	具体的計画	今年度の達成基準	自己評価(中間)		自己評価(最終)			分析・改善方策	学校関係者評価
			状況	評価	達成状況	評価	総合評価		
主体的に学ぶ意欲の育成と確かな学力の向上 ・主体的対話的で深い学びの実現 ・学びのサイクルにより学習の定着 ・読解力の育成	・教材研究、校内研修を充実させ授業改善を図る ・ICTを活用した授業の推進 ・教科担任制による指導	・講師を招聘しての研修年2回以上 ・1日1回以上授業で扱う。 ・教科担任制を通年で実施する。	・外部講師(恒次先生)を招聘し、研究授業、校内研修等を行った。 ・デジタル教科書、タブレット等を活用した授業を行った。ICTの活用についての研修を行った。 ・国語・算数・理科・図工・体育等で行った。	A	・外部講師(恒次先生)を招聘し、研究授業(書写教育研究大会)、校内研修を行った。 ・書写教育の授業研究において、ICTを活用した授業研究に取り組み、深めることができた。 ・ICTの研究を深め、他教科でも実践することができた。 ・国語・理科・算数・図工・体育等で行った。	A	A	・今年度の発表の成果をもとに、来年の新しい研究につなげていく。 ・ICTの研究を深めることができたため、ICTを生かした授業の研究を深めていく。 ・1つの学年に複数の教員で見守り、複数人で運動しながら指導することができた。	学校全体でよく取り組んでいる。どの学年も楽しそうに学習し、自分の意見を大きい声で発表している。聞いている子ども、しっかり聞いて反応をしている。掲示物からも、一人一人が一生懸命取り組んだ様子が見える。授業で、学習内容や学年に合わせて、工夫してICTを活用している点もよい。
	・学びのサイクルの徹底 ・放課後学習の実施 ・学習規律「清泉小スタンダード」の指導	・児童アンケート「相手を意識しながら話したり、発表したりすることができる」の肯定的回答が80%以上 ・全校児童が意欲的に学習している。	児童・アンケート80.8%であった。全体的には意識付けはできている。今後、つながっていく発言になるよう指導していく。 ・放課後学習を計画的に行っている。1、2年生も実施している。	B	・児童アンケートでの肯定的回答は、80.8%→86.5%であった。 ・4～6年生で支援員、担当教員、担任と連携を取りながら放課後学習を行った。	B			
	・ワークシート、MIMの活用 ・読書活動の充実	・読解力テスト(過去問活用学校作成)において平均正答率が70%以上になる。 ・児童アンケート「授業やテストがわかるようになった」の肯定的回答が75%以上になる。	・読解力テスト(過去問活用学校作成)において平均正答率(7月)は71%であった。 ・読書タイム(月2)の実施している。児童アンケート「授業やテストがわかるようになった」の肯定的回答が92%であった。	B	・読解力確認テスト(12月)の平均正答率は、82%であった。 ・昨年度に引き続き、毎週金曜日の朝学で4年生以上一斉指導(YOMUよむワークシート)、3年(さん太のワークシート)も含め4人の教員がローテーションで指導を確実に行った。 ・全国、県、読解力確認テストの結果をもとに、週末課題プリント等を作成し、手立てを確実に行った。	A		・朝の学習や放課後学習の時間、すき間時間を活用して週末課題(読解問題)を確実に復習することで、読み取る力を付けることができた。 ・教員間で読み取り問題(YOMUよむワークシート)の指導法を統一したことで、子どもが意識しながら指導された方法で問題に取り組むようになった。	
健やかな心と体の育成 ・体力向上 ・特別支援教育、食育の推進	・運動習慣定着の取組 ・運動意欲向上の取組 ・体育の授業力向上	・握力とシャトルランの記録がアップした児童が70%以上 ・児童アンケート「運動が好き」のA評価80%	・朝の運動では、リズムジャンプやフェスティバルを行い、楽しく運動をする児童が増えてきた。 ・「運動やスポーツをするのが好き」の肯定的回答(A評価)82.9%(4月)→92.6%(7月) ・授業の振り返りで、ペアやグループで認め合ったことにより自信がついた児童が見られた。	A	・握力は、33名(82%)がアップをした。全体平均で2.7kgアップ(女子2.2kg、男子2.9kg)した。 ・20メートルシャトルランは、23名(58%)がアップした。全体平均で2.6回アップ(女子2.2回、男子3.2回)した。 ・児童アンケート(12月)「体育の授業が楽しい」の肯定的回答は87.5%であった。 ・児童アンケート(12月)「運動が好きでよく運動をしている」の肯定的回答(A評価)は87.5%、肯定的回答(A+B評価)は92.5%であった。	A	B	・運動好きな児童が増えている。授業の振り返り取り組み、友達から褒められたことで苦手な種目に取り組もうとする児童が増えた。 ・シャトルランの指標が、昨年度と比べて大幅に向上した。	運動習慣が定着し、体力の維持向上につながっている。さらに、特に2学年合同でする体育の授業では、発達段階を意識した授業づくりを工夫してほしい。
	・ニーズに応じた教育支援の充実 ・食育の推進	・全校児童が適切な支援により、落ち着いて生活している。 ・全校児童が健康な食生活に関する理解と行動力を身に付けている。	・必要に応じてコーディネーターが支援に入ったり、担当外の職員が登校支援を行ったりしている。 ・残食調査の取り組みを行った。	B	・個別のケース会、校内教育支援委員会を定期または随時開催し継続した支援を行っている。 ・登校しにくい児童の対応については、職員間で連携を図って支援を行っている。 ・残食率は目標値3.0%だったが、残食減少行動計画に基づき行動し、2.4%となった。	B		・校内教育支援委員会の中で必要な支援を把握し随時対応していく。	
人とつながる力の育成 ・自他を尊重する心の育成 ・豊かな人間関係の構築	・自己肯定感の醸成 ・いじめの未然防止、早期発見の取組	・児童アンケート「自分にはよいところがある」(7月)肯定的回答86.3% ・児童アンケート「学校が楽しい」の肯定的回答(7月)91% ・教育相談アンケートを実施、気になる児童については情報共有し、対応している。	・児童アンケート「自分にはよいところがある」(12月)肯定的回答98% ・児童アンケート「学校が楽しい」の肯定的回答(12月)90.4% ・児童アンケートと面談を実施、課題の早期把握と共通理解を進めた。	B	A	B	・児童は自己肯定感を持ちながら楽しく学習ができていると考えている。少人数での人間関係の固定化もある。問題を自分たちで解決できる力を伸ばしていきたい。	どの学年もいい雰囲気、先生からも細やかに声掛けをされ、楽しそうに生活や学習をしている。少人数のよさを生かし、一人一人に自信を持たせるような取組を続けてもらいたい。	
	・縦割り班活動、委員会活動、キャリア教育、道徳教育の充実 ・学年(低中高)担任制	・児童アンケート「人の役に立つことをしようとしている」の肯定的回答80%	・児童アンケート「人の役に立つことをしようとしている」の肯定的回答(7月)91%であった。 ・児童のよい行動やよいところを見つけ、メッセージカードを掲示したりお昼の放送で紹介したりした。 ・縦割り班を活用し、そうじやスマイルタイムを実施した。	・児童アンケート「人の役に立つことをしようとしている」(12月)肯定的回答79% ・児童のよい行動やよいところを見つけ、ここにメッセージとして紹介したり掲示したりする活動を引き続き行った。 ・縦割り班を活用し、そうじやスマイルタイムを引き続き行った。	B		B		・児童のよい行動を周りに知らせることで、自己肯定感が向上した。 ・スマイルタイム(縦割り班遊び)に取り組んだことで、児童が主体的に活動する姿を見ることができた。今後、当番活動や委員会活動のさらなる充実を図り、役に立つ経験を重ねたい。
地域から学びふるさとを大切に する心の育成 ・つやま郷土学の推進 ・地域との連携	・地域人材や教材を活用した活動の推進 ・地域貢献活動	・保護者アンケート「地域の人材や特色を生かした教育活動を行っている」の肯定的評価80%以上 ・学校評価アンケートCS項目肯定的回答80%以上	・学校運営協議会で学校運営について協議を行った。 ・8月に拡大学校運営協議会を実施し、各地区老人クラブの方や全教職員で熟議をした。今後、地域に学ぶ会を実施する予定である。	B	・保護者アンケート「地域の人材や特色を生かした教育活動を行っている」(12月)肯定的回答100% ・地域のご協力が保護者のみなさんにも伝わっていると感じている。	A	A	・地域に学ぶ会など地域の力が本校の強みである。今後、複式学級への対応も含めて、内容や方法において、学校運営協議会等と相談しながら、より効果的な連携を検討していきたい。	コミュニティー・スクール2年目。学校への理解も深まりだんだんとみんなのものになっていることを感じる。今後も子どもたちを見守り、しっかり協働したい。
	・コミュニティスクールの取組 ・学校公開、情報発信、東中ブロックとの連携 ・就学前教育との円滑な接続	・保護者アンケート「通信などで学習や生活の様子を知らせている」肯定的回答80%以上	・東中ブロックの連携事業への参加、津山市保幼小連携担当者会での連携、青少年を守る会・公民館活動との連携をしている。	・保護者アンケート「通信やHPなどで子どもの学習や生活の様子を知らせている」(12月)肯定的回答100% ・学校HPを毎日、発信していることは効果的であると考えている。今後、周知に努めたい。	B	A		・学校だよりを毎月、まなびポケットで送信した。園訪問を行い、就学前教育との円滑な接続に努めた。	